

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	こどもセンターゆいまわる			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 14日		～	2026年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	76	(回答者数)	32
○従業者評価実施期間	2026年3月6日		～	2026年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性や背景を丁寧に捉えた支援	子どもを「人・環境・作業」の視点から多面的に捉え、一人ひとりの特性や背景、生活全体を踏まえて支援を行っている。健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性の5領域を意識しながら、個々に応じた支援内容を組み立てている。	今後も専門職の視点を活かした見立ての質を高め、子どもの育ちや強みをより丁寧に支援へつなげていく。
2	保護者や関係機関と一緒に考える連携力	家庭・園・学校・相談員・併用事業所などと情報共有や相談援助を行いながら、支援の方向性を揃えることを大切にしている。法人理念でも、家庭・学校・地域を「届けたい教育」でつなぐことを掲げており、子どもを真ん中にした連携を意識している。	関係機関との会議や情報共有の場をさらに充実させ、より一体感のある支援体制づくりを進めていく。
3	専門性を活かした幅広い支援プログラム	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、保育士がそれぞれの専門性を活かしながら連携し、運動遊び、感覚遊び、構造化、視覚支援、SST、地域活動、お買い物体験、クッキング体験など、多様な活動を通して、子どもの発達や興味関心に合わせた支援を行っている。また、職員の質の向上に向けて、キャリアアップ研修や専門研修、内部研修を実施している。	多職種での連携をすすめ、研修や実践の振り返りを継続しながら、支援の専門性と実践力をさらに高めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリーや医療的ケアを必要とする利用児への受け入れ体制に限りがあること (車椅子利用や呼吸機器など、個別の配慮や設備が必要なケースに対して、現時点で十分な受け入れ環境が整っていない部分がある。)	施設設備や環境面に構造上の制約がある。 (建物や設備の条件上、完全なバリアフリー対応や医療的ケアに十分対応できる備品整備には限りがあり、受け入れ体制に制約が生じている。)	児童発達支援センターとしての機能重要性に鑑み、受け入れ体制の現状整理と今後の環境整備を進める (バリアフリーや医療的ケア児の受け入れについて、現状で対応できること・難しいことを整理し、必要に応じて設備面や備品、連携体制の見直しを検討していく。)
2			
3			

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日: 2026年3月25日

事業所名: 児童発達支援 こどもセンターゆいまわる

対象人数(保護者)76人 回答者数 32人 回収 42.1%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	① こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	31			1		
	② 職員の配置数は適切であると思いますか。	30			2		
	③ 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	29	1		2		
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30		1	1	フロアクッションは安全の為、設置してあるのだと思いますが隙間に埃があったり大きなクッションは汚れや劣化が目立つのはとても気になります。	ご指摘を受け、フロアクッションの隙間清掃や備品の点検頻度を見直しました。劣化が見られるものは順次交換し、引き続き清潔で安全な環境づくりを徹底してまいります。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な支援の提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に 応じた専門性のある支援が 受けられていると思いますか。	30	1		1		
	⑥	事業所が公表している支援 プログラムは、事業所の提供 する支援内容と合っている と思いますか。	28	2		2		
	⑦	こどものことを十分に理解し、 こどもと保護者のニーズや課題が 客観的に分析された上で、 児童発達支援計画(個別支援 計画)が作成されている と思いますか。	30	1		1		
	⑧	児童発達支援計画には、 児童発達支援ガイドラインの 「児童発達支援の提供すべき 支援」の「本人支援」、「 家族支援」、「移行支援」 で示す支援内容からこども の支援に必要な項目が適切 に設定され、その上で、 具体的な支援内容が設定 されていると思いますか。	28	1		3		
	⑨	児童発達支援計画に沿った 支援が行われている と思いますか。	28	2		2		
	⑩	事業所の活動プログラムが 固定化されないよう工夫 されていると思いますか。	29			3		
	⑪	保育所や認定こども園、 幼稚園等との交流や、 その他地域で他のこども と活動する機会が ありますか。	10	2	1	19		近隣の保育園児を療育 ルームに招き、遊びの 機会を提供しています。 また、ハロウィン等の 行事での交流や、 定期的な開放日を通 して地域の方との交 流も行っています。 今後も地域とのつな がりを大切にしま います。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑫ 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30	1		1		
	⑬ 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	29	2		1		
	⑭ 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	26	1	2	3		
	⑮ 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	29	2	1		毎回丁寧に説明してくれて、嬉しいです。	温かいお言葉をありがとうございます。今後も日々様子を丁寧に共有し、ご家庭と共通理解を深めながら支援を行ってまいります。
	⑯ 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	2	1			
	⑰ 事業所の職員から共感的に支援がされていると思いますか。	30	1	1			
	⑱ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	21	4	1	6		保護者同士やきょうだいの交流機会について、現状の取り組みが十分に周知されていない可能性があるため、今後は開催予定や内容について分かりやすくお知らせしてまいります。また、保護者会や交流イベントの実施についてもニーズを踏まえながら企画し、保護者同士が安心してつながれる機会や、きょうだい児も参加できる場づくりを検討してまいります。
	⑲ こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	26	2		4		
	⑳ こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	27	3		2		
	㉑ 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	29	1		2		
㉒ 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30			2			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の 対応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	1		14		事故防止や緊急時対応等の各種マニュアルについては整備しておりますが、保護者の皆様への周知が十分でない点を踏まえ、今後は資料配布や掲示、説明の機会を設けるなど、分かりやすい情報提供に努めてまいります。 また、訓練の実施状況についても具体的にお知らせし、安心してご利用いただける体制づくりを強化してまいります。
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	1		20		非常災害に備え、職員研修を実施するとともに、利用者と一緒に定期的な避難訓練を行っています。 今後は訓練の実施状況についても、より分かりやすくお知らせし、安心につながる情報発信に努めてまいります。
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	1		7		
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21	1		10		事故発生時には速やかな連絡と状況説明を行っておりますが、保護者の皆様に十分に伝わっていない可能性があるため、今後は連絡方法や説明内容の統一を図り、より丁寧で分かりやすい対応を徹底してまいります。 また、再発防止策についても併せて共有し、安心につながる情報提供を行ってまいります。
満足度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	31			1		
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	29	1		2	毎週とても楽しみにしています。	嬉しいお言葉をありがとうございます。これからも「楽しい」「行きたい」と思える場であり続けられるよう努めてまいります。
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	31			1	毎回楽しく利用させてもらっています。療育日には、「ゆいまわるいきまーず」と嬉しそうです。いつもありがとうございます。	励みになるお言葉をありがとうございます。安心と成長を大切に、今後も質の高い支援を継続してまいります。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 8年 3月 6日

事業所名

こどもセンターゆいまわる

		チェック項目	はい	いいえ	分からない	工夫している点・課題	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9				
	2	職員の配置数は適切である	9				
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9			個々に応じて環境を変えるようになっています	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9			ジャンボマットの交換を進めている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9				
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9				
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9				
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1	1	把握出来ていません	第三者評価制度についての情報収集を行い、外部評価の実施方法や活用方法を事業所内で共有する。必要に応じて外部評価の導入を検討し、支援の質向上につなげていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9				
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	1		・アセスメントの質の向上については現場で検討中。常に質の向上を検討するからこそその動きである向上を検討するからこそその動きである。 ・作成したことがありません。	アセスメントの目的や手順について研修やケーススタディを通して理解を深め、職員全体で質の高いアセスメントが行える体制を整える。また、経験の少ない職員も作成に関わる機会を設け、チームでアセスメント力の向上を図る。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9			生活の質を軸にしているため「標準化」したアセスメントにしたアセスメントに抵抗はあったが、クライアントのエンパワメントに支障をきたさないきたさない「標準化されたアセスメントツール」のしようも検討しているところのようです。	様々な評価表を試しながら事業所にあった評価表を検討する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9			かなり具体的に計画には目標が示されており、関わりのポイントと具体的な作戦も具体的な作戦も示されるようになった。現状の支援計画はかなり質が高くなっている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9				
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9			・常に療育チームで話し合う事は習慣となっている。今後は、部署を超えて「訪問」と「療育」のチームでのさらなるケーススタディを期待できる状態である ・必要な場合は他スタッフにきいて立案している	療育チーム内での情報共有を継続しながら、訪問支援チームとのケーススタディや事例検討を定期的に行い、多角的な視点から支援内容の質向上を図る。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 8年 3月 6日

事業所名

こどもセンターゆいまわる

	チェック項目	はい	いいえ	分からない	工夫している点・課題	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9			毎回少し変化はつけているが、保護者が感じる変化かはわからない	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9			私自身はまだ作成していませんが、計画を作成している方々はしていると計画書を見ると感じます	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 8年 3月 6日

事業所名

こどもセンターゆいまわる

	チェック項目				工夫している点・課題	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ	分からない		
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9				
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9				
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9				
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9			私自身はまだ行った経験がありません	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			日頃からSVロールが全体を把握し、コミュニケーションを行えているコミュニケーションを行えている。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9			保護者との連携も毎回行っている。より子育てなどテーマに対する支援を深めるために、センターでは定期的にテーマを作った保護者勉強会も行っている。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9				
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	9				
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			・訪問によって必ず生活の場である保育園を分析し分析し、連携を行っている。 ・ニーズに合わせて対応している。積極的なチーム会議への参加を行っている。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			・年長になると小学校への進学を意識した支援を行い、準備を行っている。 ・必要に応じて行っている	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	1			専門機関との連携や研修機会を積極的に活用し、事例検討や情報共有を通して支援の質向上と職員の専門性向上を図る。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	8	1		これからも機会を増やしていきたい	地域の保育所や幼稚園等との交流機会を意識的に計画し、子ども同士の自然な関わりが生まれる活動やイベントを検討・実施していく。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	1		これから体験会やイベントを通して参加していきたい	地域の子どもの支援に関する会議や体験会、イベント等に積極的に参加し、地域ネットワークの構築と情報共有を進めていく。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1		自身の伸び代は感じていますが、現段階の力量で意識して話せるようにしている	日々の療育の様子や子どもの成長、課題について丁寧に伝える機会を増やし、保護者と共に発達理解を深める関係づくりを継続していく。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 8年 3月 6日

事業所名

こどもセンターゆいまわる

	チェック項目	はい	いいえ	分からない	工夫している点・課題	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	1		私自身は支援をしていません	ペアレントプログラムや家族支援に関する研修への参加や事例共有を通して職員の理解を深め、必要に応じて保護者向けの支援プログラムの実施を検討する。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			これから説明できるよう知識を深めたい	運営規程や利用者負担等の制度について職員間で共有し、説明マニュアル等を整備することで、誰でも適切に説明できる体制を整える。
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	1		まだ説明をした事がない	職員が児童発達支援計画の作成やモニタリングのプロセスに段階的に関わられるよう、研修やOJTを通して経験を積む機会を確保し、支援計画作成の理解と実践力の向上を図る。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 8年 3月 6日

事業所名

こどもセンターゆいまわる

	チェック項目	評価			工夫している点・課題	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ	分からない		
保護者への説明責任等	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9			まだ説明をした事がない	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9			特にここ1年間はこの取り組みに力を入れており、保護者からも好評である。	
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1		新規の相談にたいしては、迅速に対応するよう期限を設けている。	保護者からの相談に対して適切に対応できるよう、ケース検討やスーパーバイザーを通して相談支援のスキルを高める。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			SNSでの発信が中心であり今後は、利用者への個別の発行の必要性を検討してもいいかもしれない。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	9				
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9				
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9				
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9				
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9				
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9				
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9				
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	1		実施して入るが、共有後の対策をまとめることをしていない。今後検討が必要。	ヒヤリハット事例の共有だけでなく、原因分析と再発防止策を記録・共有する仕組みを整え、安全管理の強化を図る。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9				
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	1			身体拘束の適正化に関する研修や事例検討を継続し、職員の理解を深めるとともに、保護者への説明と合意形成を丁寧に行う。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。